

みなみだ
南田遺跡現地説明会資料

2006 年 11 月 19 日（日）

財団法人山形県埋蔵文化財センター

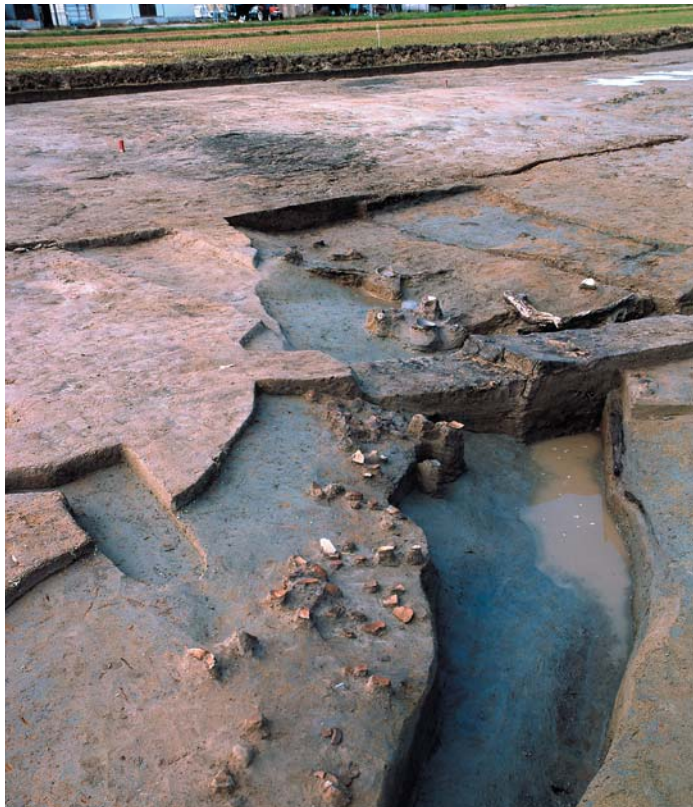


図1 土器出土状況（川跡 S G 130, 南東から）

1 はじめに

南田遺跡は古墳時代と奈良時代、平安時代の遺跡です。井戸、土坑、溝、ピット、川跡などが見つかりましたが、住居はありませんでした。すでに削平されているか、あるいは住居域から離れた個所であると考えられます。調査区の北端と東端には大きな川跡（S G 81）が見つかったため、遺跡の中心は調査区より西側であると予想されます。

2 調査成果

調査区の南半には奈良時代後半の土器が出土した溝跡や土坑があります。土坑 S K 142 には大量の炭が堆積し、その中には土器も捨てられていました（図6）。

北端の川跡 S G 81 の上層の泥炭層からは平安時代の土器が



図2 調査区全景（北から）

調査要項	
遺 跡 名	みなみだ 南田遺跡
所 在 地	山形県鶴岡市大字清水新田字南田
遺 跡 番 号	平成 16 年度登録
現 地 調 査	平成 18 年 9 月 19 日～平成 18 年 11 月 29 日
調 査 面 積	3,400 平方 m
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設事業
遺 跡 種 別	集落跡
時 代	古墳時代・奈良時代・平安時代
遺 構	井戸・土坑・溝・川跡・ピット
遺 物	土師器・須恵器
調査担当	調査研究員 水戸部 秀樹 調査員 渡辺 和行
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所 庄内教育事務所 鶴岡市教育委員会

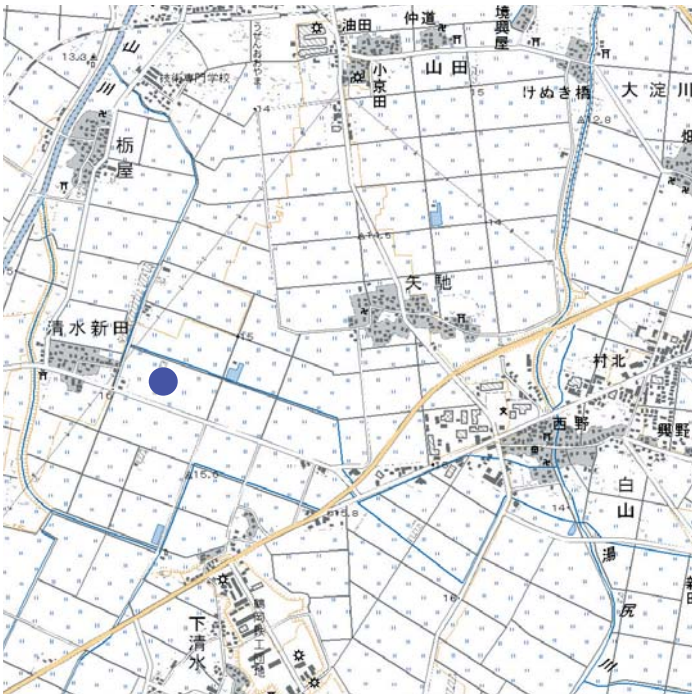


図3 遺跡位置図



図4 川跡 S G 81 の堆積状況



図5 井戸 S E 80

出土しました。調査区内では川跡 S G 81 の南岸だけが検出されているため、本来どのくらいの幅がある川なのかは分かりません。ただし、深さは 1. 6 m 以上とみられ、非常に大きい川であったと考えられます（図4）。下層からは古墳時代の土器が出土しました。

ほかに川跡 S G 248・356 から古墳時代の土器が数多く出土しました（図7・8）。完全な形に復元できそうな土器も含まれています。これらの東西に流れる川跡は、より大きい川跡である S G 81 に合流したものと考えられます。井戸 S E 80（図5）の深さは 180cm ありましたが、遺物がほとんど出土していないため、いつの時代のものか分かりません。

3 まとめ

遺物は古墳時代の土師器のほかに奈良時代と平安時代の土師器と須恵器が主に溝と川跡から出土しました。

奈良時代の土器は 8 世紀中頃から後半のものであり、庄内平野では希少な出土例です。主に川跡 S G 130 から出土しました。（図1）『続日本紀』では 708 年に出羽郡が設置されたとされていますが、その中心である出羽柵の具体的な場所は分かっています。8 世紀後半の須恵器



図9 蓋



図10 坏



図12 稜坑

図11 高台付坏

図13 高台付坏